

1. 科目名 (単位 数)	看護臨床実習指導 (2単位)	3. 科目番号	EDHE3378
2. 授業担当教員	高橋 登志子		
4. 授業形態	グループワーク・ディスカッションを中心に、講義・発表・実技演習などで構成する。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	医療機関での看護臨床実習に向けての授業になります。よって看護学を履修していることが望ましい		
7. 講義概要	<p>本科目では、養護教諭を志す実習生が「看護学(救急処置を含む)」を中心とした既習の知識・技術等を活用して、主体的に看護臨床実習に臨む力を培うことを目指している。なお、養護教諭としての実践力を高めるためには、学校との連携が不可欠な、地域の医療を必要とする人々の理解や、医療現場、医療に携わる人々、専門性に基づいた看護業務に関する理解等が求められる。</p> <p>そして、看護は患者ではなく「その人」をみる。看護行為は専門性に基づいた意図的な営みであり、意図していなかった意味もある。本科目では、この考え方を基盤に、看護臨床実習の場で実習生が学びを得るために必要となる、基礎的知識や技術、態度や心構えなどを学ぶ。また本科目は、学生が主体的に学習課題を見出した上で、グループでの学びを自己課題へとつなげていくことができるよう展開する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 養護教諭を志す学生にとっての看護臨床実習の目的を理解し説明することができるようになる。 2 養護教諭を志す実習生の心得と学び方や態度について学び、実践することができるようになる。 3 健康障害のある人々や、検査や治療を必要とする人々が体験している生活を想定し、看護の役割に関する自己の考えを記述することができるようになる。 4 看護臨床実習におけるその場で、実習生が意図的な「観察」や「参加・実習」をし、学びを得るための準備をすることができる。 5 看護臨床実習において、安全・円滑に実習が進み、より多くの体験やできることに向けて、基礎的な看護技術を体験し、学びと課題の自覚をすることができる。 6 看護臨床実習において、場や状況の理解ができるようになるために、医療現場の組織や設備に関することを学び、医療現場にある人的・物的資源を調べる方法を見出すことができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>【アサイメント(宿題)】</p> <p>課題1. 養護教諭における看護臨床実習の目的、意義、位置づけについて述べてください。</p> <p>課題2. 小児科の代表的疾患・症状・治療法・検査について述べてください。</p> <p>課題3. 移動援助の実習を通して、学んだことを述べてください。</p> <p>提出方法については授業中に提示する。</p>		
10. 教科書・参考 書・教材	<p>【教科書】 中桐佐智子・岡田加奈子編『改訂 養護教諭のための保健・医療・福祉系実習ハンドブック』、東山書房、2013</p> <p>東京福祉大学編『教育実習の手引き』</p> <p>東京福祉大学編『養護実習・看護臨床実習の手引き』</p> <p>【参考書】 『看護学事典』</p> <p>提示以外に必要な参考書は随時提示する。</p>		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 養護教諭を志す学生にとっての看護臨床実習の目的を理解し説明できるようになったか。 2. 養護教諭を志す実習生の心得と学び方への態度を理解し、実践することができたか。 3. 看護臨床実習におけるその場で、実習生が意図的な「観察」や「参加実習」をし、学び得るための準備をすることができているか。 4. 看護臨床実習において、安全・円滑に実習が進み、より多くの体験やできることに向けて、基礎的な看護技術を体験し、学びと課題を自覚することができたか。 <p>○評定の方法(下記を総合して成績評価をする。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加態度(30%) 2. 授業ごとに提出する授業への振り返り(30%) 3. 小テスト・課題レポート(40%) <p>上記のほかに、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の修得の条件であることをも配慮した。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>「看護臨床実習指導」は、地域看護の実態を把握するとともに、看護現場で経験豊かな指導者のもとで患者と直接的に触れ合い、養護教諭としての自覚や資質を高めるための基礎的能力や態度を養うこと。</p> <p>養護教諭を目指す学生として医療機関で実習するという念頭に心構え、態度、基本的知識・技術の習得できるように臨んでください。学校では、養護教諭の職務の中で、「看護の機能」に対するニーズは高いと言われています。この授業を通し、実践的な知識や技術が身につくことを期待しています。</p> <p>授業には教科書を必ず持参すること、事前学習を必ず確認して参加してください。また、実習を取り入れた授業体制であるため動きやすい服装(靴を含む)で参加してください。</p> <p>授業中は通信手段の電源を切ってください。</p>		
13. オフィスアワー	<p>授業日は、授業と授業の間の時間、授業終了後に対応する。</p> <p>授業日以外に連絡を必要とした場合は p-totakaha@ed.tokyo-fukushi.ac.jp に連絡してください。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 看護臨床実習の目的と意義 病院において看護臨床実習に臨むことへの明確化に向けてまとめる①	事前学習	テキスト pp.8~16 の内容を読んで看護臨床実習目的は何かを看護臨床実習用ノートに記述してくること。
		事後学習	養護教諭における看護臨床実習の目的、意義、位置づけについて看護臨床実習用ノート記述して第2回目の授業に提出する。

第2回	実習の方法 実習場所と実習内容について 実習生の心得・実習のルール・留意点	事前学習	テキスト pp.8～23 の内容を読んで実習の方法、実習の心得はどのようなことかを読んでノートに記述してくる。
		事後学習	自己の希望する実習場所について、どのような実習機関・施設なのか、関係する法的な事項について調べノートにまとめる。 自己が行動できるように「実習生の心得・実習ルール・態度等」について授業の内容をノートに記述する。
第3回	医療系施設における実習について① ・病院と診療所の定義と役割 ・病院の組織、看護部の組織について ・病院の種類	事前学習	テキスト pp.26～45 の内容を読んで臨むこと。 病院と病床の種類別を調べてノートに記述してくる。
		事後学習	各科に共通する見学・参加可能実習内容を看護臨床実習用ノートにまとめる。
第4回	医療系施設における実習について② ・病院に従事する医療従事者について ・看護記録と看護過程の実際	事前学習	テキスト pp.26～45 の内容を読んで臨むこと。 病院に従事する医療従事者について、看護記録と看護過程の実際を調べてノートに記述してくる。
		事後学習	各科に共通する見学・参加可能実習内容を看護臨床実習用ノートにまとめる。
第5回	各科実習とその具体的展開（看護技術の演習・地域医療と学校保健の連携に関する内容を含む）をグループ内で学びの共有と発表の準備① ・小児科・内科の実習 ・外科・整形外科の実習	事前学習	テキスト pp.46～49、pp.53～61 の小児科実習の特徴、内科実習、外科実習、整形外科実習の特徴とは何かを読んでくる。
		事後学習	小児科実習内容、内科実習内容、外科実習内容・整形外科実習についてまとめる。小児の正常な形態的発達・機能的発達・精神・運動機能の発達、内科の疾患、外科実習内容・整形外科実習内容を学校保健に関する症状・治療法・検査を看護臨床実習用ノートに記述する。また、グループ発表に向けてまとめる。
第6回	各科実習とその具体的展開（看護技術の演習・地域医療と学校保健の連携に関する内容を含む）をグループ内で学びの共有と発表の準備② ・眼科・耳鼻咽喉科の実習 ・歯科口腔外科の実習 ・皮膚科・産婦人科の実習	事前学習	テキスト pp.61～74、眼科の実習、耳鼻咽喉科実習、歯科口腔外科実習、皮膚科実習、産婦人科実習の特徴とは何かを読んでくる。
		事後学習	眼科の実習内容、耳鼻咽喉科実習内容、歯科口腔外科実習内容、皮膚科実習内容、産婦人科実習内容を学校保健に関する症状・治療法・検査をノートに記述する。また、グループ発表に向けてまとめる。
第7回	各科実習とその具体的展開（看護技術の演習・地域医療と学校保健の連携に関する内容を含む）のグループ発表と共有①	事前学習	グループ発表に向けて準備をメンバーで進めて臨むこと。
		事後学習	各グループ発表をまとめ疑問点などをまとめる。
第8回	各科実習とその具体的展開（看護技術の演習・地域医療と学校保健の連携に関する内容を含む）のグループ発表と共有②	事前学習	グループ発表に向けて準備をメンバーで進めて臨むこと。
		事後学習	各グループ発表をまとめ疑問点などをまとめる。
第9回	各科実習とその具体的展開（看護技術の演習・地域医療と学校保健の連携に関する内容を含む）のグループ発表と共有③	事前学習	グループ発表に向けて準備をメンバーで進めて臨むこと。
		事後学習	各グループ発表をまとめ疑問点などをまとめる。
第10回	看護臨床実習記録の書き方・評価の仕方について	事前学習	テキスト pp.75～82 の内容、看護臨床実習記録の手引きを読んで看護臨床実習で利用される実習記録にはどのようなものがあるかを調べてノートに記述してくる。
		事後学習	看護臨床実習記録を授業中に提示した事例を用いて記録用紙に記述する。
第11回	医療機関での生活環境の想定した(ベッドメイキングの作成を含む)実習	事前学習	第10回の授業の終了時に提示する配布資料を読み、留意点については記述してくる。
		事後学習	実習した内容をノートに記述すること。
第12回	体位変換・移動の援助・衣類の着脱の実習	事前学習	第11回の授業の終了時に提示する配布資料を読み、留意点については記述してくる。

		事後学習	課題レポート提出…移動援助に関連した内容 提出内容については授業終了時に提示する。
第13回	包帯・三角巾による傷病時実習	事前学習	第12回の授業の終了時に提示する配布資料を読み、留意点については記述しておくこと。
		事後学習	包帯・三角巾の実技の基本から応用についてノートにまとめる。
第14回	グループ討議『看護臨床実習において学びとりたいこと、体験したいこと』	事前学習	今までの学びを統合して「看護臨床実習の目的とあなた個人の実習課題」を記述しておくこと。
		事後学習	看護臨床実習の目的とあなた個人の実習課題を看護臨床実習用ノートに記述して提出。
第15回	看護臨床実習に関連する基礎知識の確認（解剖生理学、薬理学、医学、看護学等）	事前学習	第14回に看護臨床実習に関連する基礎知識の配布資料の内容、テキスト pp. 188～197 の医学、看護学内容を読んでおくこと。
		事後学習	「看護臨床実習に必要な知識・技術」に関する薬理学を中心に学びをノートにまとめる。